

決算説明会 (2014年6月期)

2014年8月13日

株式会社 アルバック

◆将来見通しに関する記述についての注意事項

このプレゼンテーション資料で述べられている将来の当社に関する見通しは、現時点で知りうる情報をもとに作成されたものです。当社グループのお客様であるフラットパネルディスプレイ(FPD)・半導体・太陽電池・電子部品などの業界は技術革新のスピードが大変速く、競争の激しい業界です。

また、世界経済、為替レートの変動、FPD・半導体・電子部品・原材料などの市況、設備投資の動向など、当社グループの業績に直接的・間接的に影響を与える様々な外部要因があります。したがって、実際の売上高および利益は、このプレゼンテーション資料に記載されている予想数値とは大きく異なる可能性があることをご承知おきください。

◆本資料における表示方法について

(特段の記載がない限り、数値はすべて連結ベースです)

数値： 単位未満四捨五入

比率： 百万円単位で計算後、単位未満四捨五入

会計期間の表現：

2Q(累計)：第2四半期連結累計期間

2Q : 第2四半期連結会計期間

アジェンダ

ごあいさつ

2014年6月期連結業績概要

2015年6月期連結業績予想

中期経営計画の見直し

質疑応答

アジェンダ

ごあいさつ

2014年6月期連結業績概要

2015年6月期連結業績予想

中期経営計画の見直し

質疑応答

2014/6期業績

- ・売上高は、前年度比増加(半導体・電子機器製造装置を中心に主要品目はいずれも増加)。
- ・営業利益(率)は、売上高の増加効果に加え、半導体及び電子部品製造装置ならびに分析機器・成膜を含む真空応用事業などにおいて、利益率の高い案件のタイミングが重なったこともあり増加。
- ・当期純利益は、これに加え、子会社株式・不動産売却益を中心に特別利益25億円計上により、過去最高の115億円を達成。

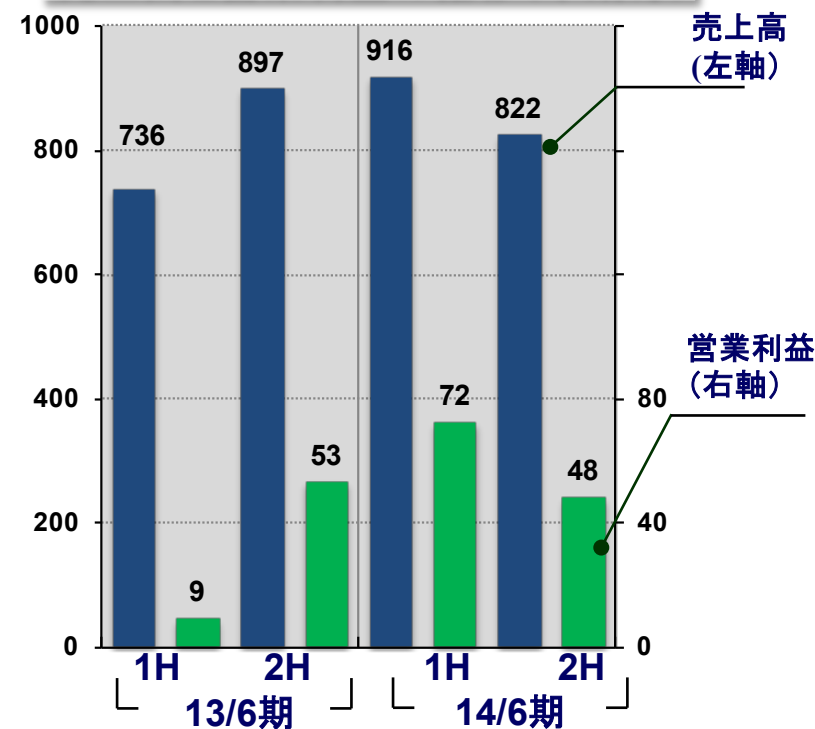
【単位:億円】

	13/6期	14/6期			前年度比
		当初予想	前回予想 (5/14発表)	実績	
受注高	1,668	1,800	1,700	1,698	30 (+2%)
受注残高	725			672	
売上高	1,634	1,800	1,750	1,739	105 (+6%)
売上総利益	370			426	
率	22.6%			24.5%	
販管費	308			307	
営業利益	61	90	115	120	59 (+96%)
率	3.7%	5.0%	6.6%	6.9%	
経常利益	63	70	125	134	71 (+114%)
率	3.8%	3.9%	7.1%	7.7%	
特別利益	3			25	
特別損失	71			7	
税金費用他	32			36	
当期純利益	-38	40	100	115	153

【()内は前年同期比、増減率、百万円単位で計算後、単位未満四捨五入】

【単位:億円】

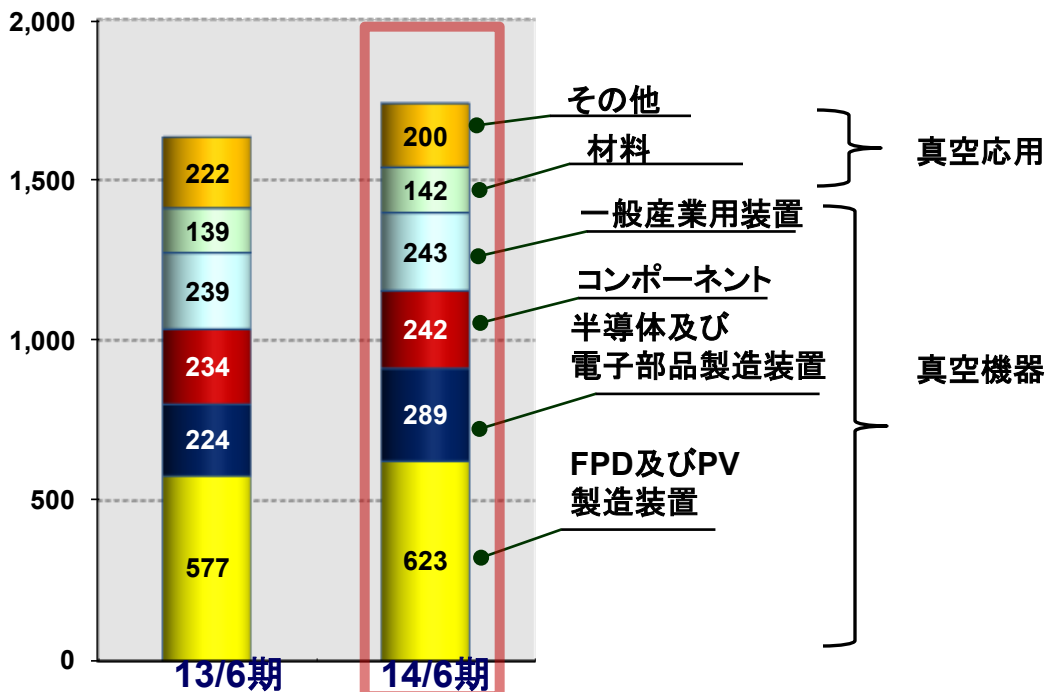
売上高と営業利益の推移(半期毎)



品目別売上高の実績

・半導体及び電子部品製造装置を中心に主要品目はいずれも前年度比増加

【単位：億円】



【単位：億円】

13/6期		
セグメント・品目	売上高	構成比
真空機器事業	1,273	78%
FPD及びPV製造装置	577	35%
半導体及び電子部品製造装置	224	14%
コンポーネント	234	14%
一般産業用装置	239	15%
真空応用事業	361	22%
材料	139	9%
その他	222	14%
合計	1,634	100%

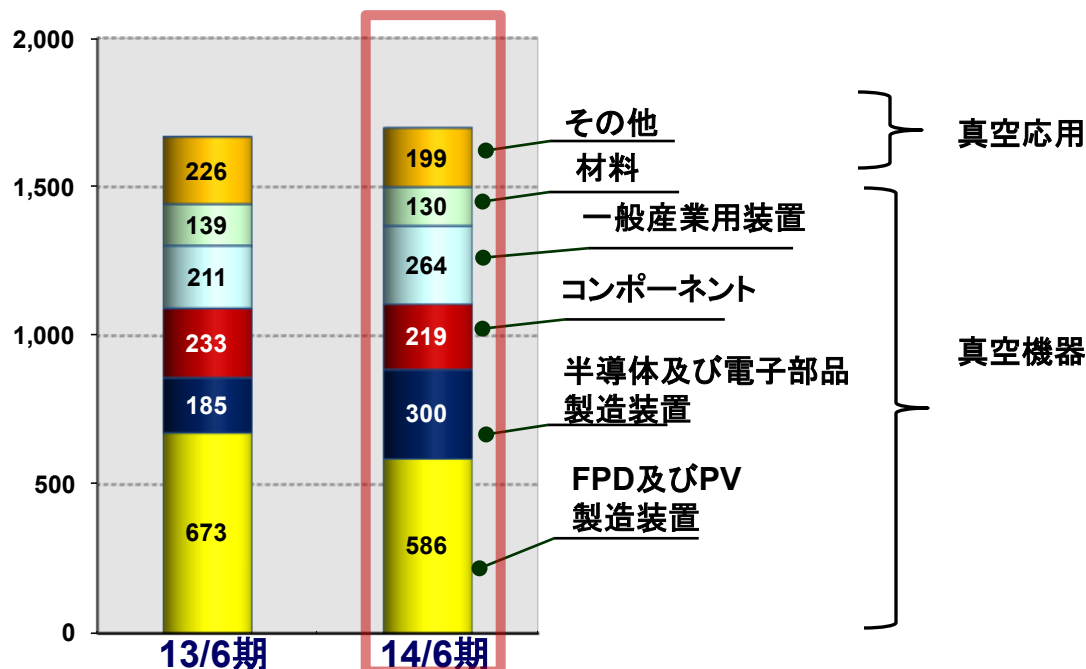
14/6期			前年同期比 (増減率)
セグメント・品目	売上高	構成比	
真空機器事業	1,397	80%	10%
FPD及びPV製造装置	623	36%	8%
半導体及び電子部品製造装置	289	17%	29%
コンポーネント	242	14%	3%
一般産業用装置	243	14%	2%
真空応用事業	342	20%	-5%
材料	142	8%	2%
その他	200	11%	-10%
合計	1,739	100%	6%

【記載された金額は四捨五入しておりますので各項目の合計値が一致しない場合があります。】

品目別受注高の実績

【単位：億円】

- ・全体では、前年度比若干の増加
- ・半導体及び電子部品製造装置、一般産業用装置は前年度比増加、全体を牽引。
- ・FPD及びPV製造装置は前年度比減少
(有機EL製造装置の減少が主因)



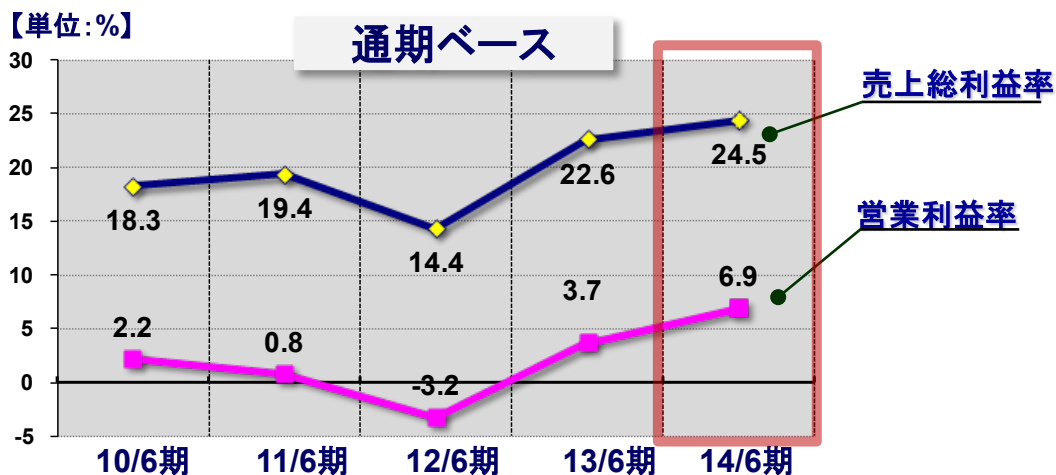
【単位：億円】

13/6期			14/6期			前年同期比 (増減率)
セグメント・品目	受注高	構成比	セグメント・品目	受注高	構成比	
真空機器事業	1,303	78%	真空機器事業	1,369	81%	5%
FPD及びPV製造装置	673	40%	FPD及びPV製造装置	586	35%	-13%
半導体及び電子部品製造装置	185	11%	半導体及び電子部品製造装置	300	18%	62%
コンポーネント	233	14%	コンポーネント	219	13%	-6%
一般産業用装置	211	13%	一般産業用装置	264	16%	25%
真空応用事業	365	22%	真空応用事業	329	19%	-10%
材料	139	8%	材料	130	8%	-6%
その他	226	14%	その他	199	12%	-12%
合計	1,668	100%	合計	1,698	100%	2%

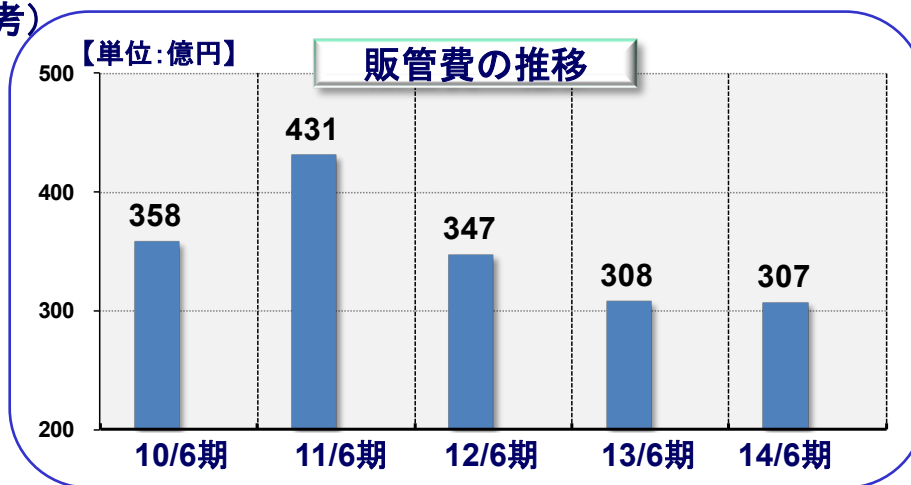
【記載された金額は四捨五入しておりますので各項目の合計値が一致しない場合があります。】

利益率の推移

売上総利益率、営業利益率とも前年度比改善。販管費は前年度並みに抑制継続。



(参考)



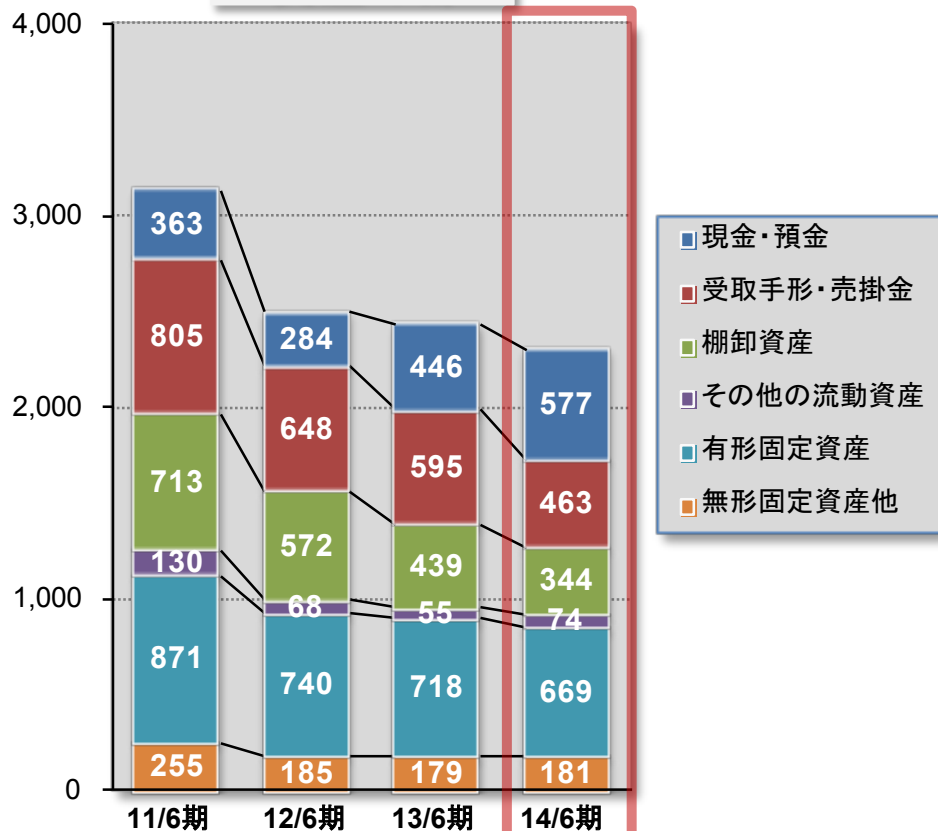
【小数点以下第2位は四捨五入】

連結貸借対照表

- ・受取手形及び売掛金が132億円、棚卸資産が95億円、有形固定資産が49億円それぞれ前年度比減少。
- ・純資産は128億円増加。
- ・この結果、有利子負債(長・短)が165億円減少する中、現金・預金が131億円増加。

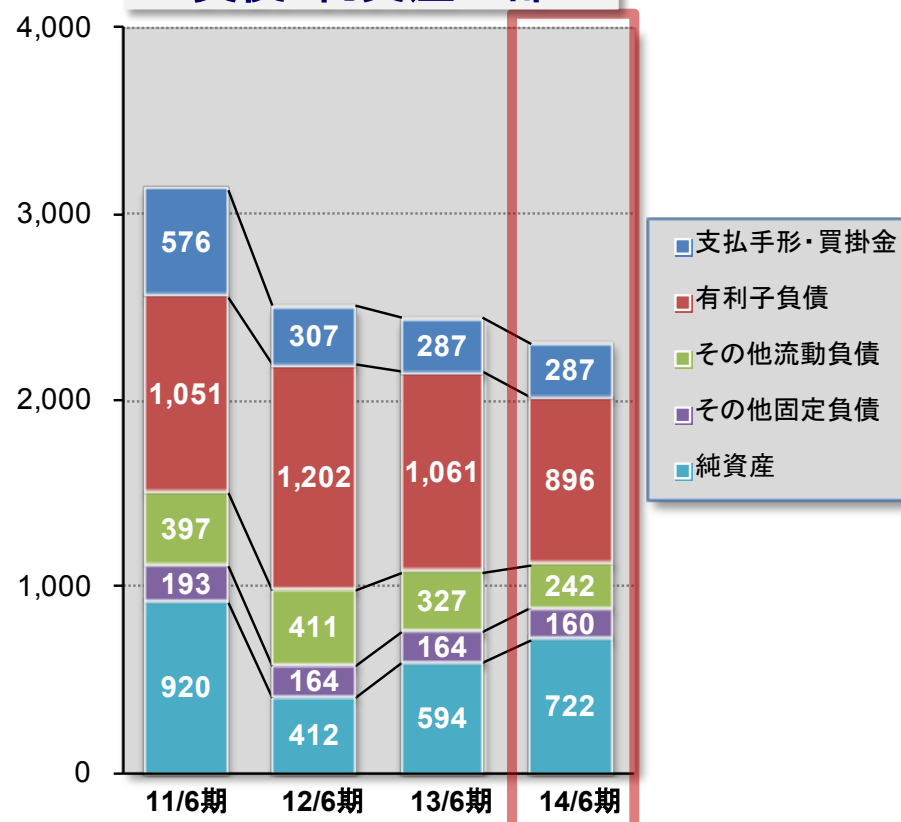
【単位:億円】

資産の部



【単位:億円】

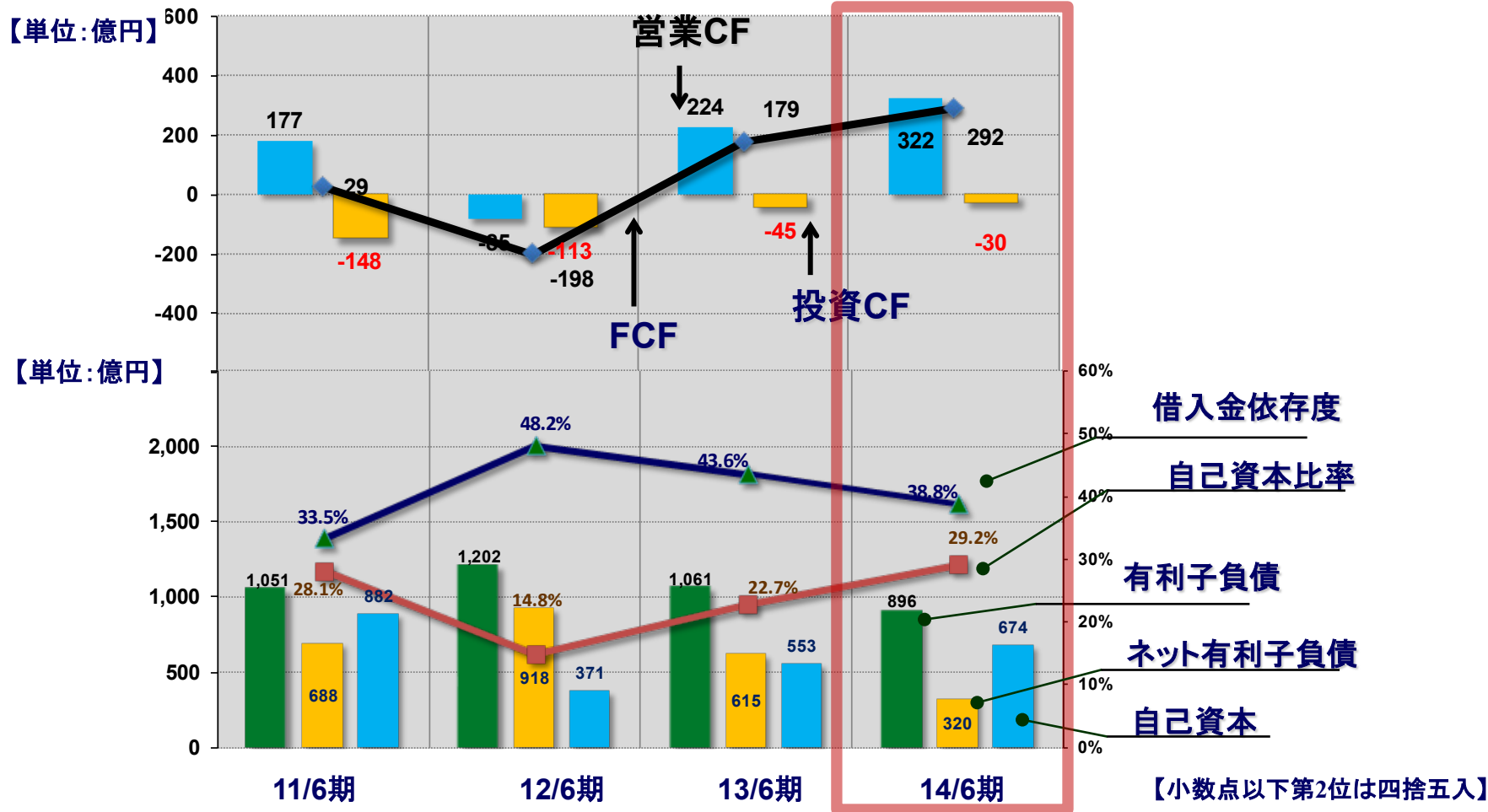
負債・純資産の部



【記載された金額は四捨五入しておりますので各項目の合計値が一致しない場合があります。】

キャッシュ・フローと有利子負債の実績

- ・営業CFは322億円のプラス、投資CFは子会社株式・不動産の売却収入もあり30億円のマイナスに留まり、FCFは292億円のプラスとなった。
- ・ネット有利子負債は320億円にまで減少。



アジェンダ

ごあいさつ

2014年6月期連結業績概要

2015年6月期連結業績予想

中期経営計画の見直し

質疑応答

2015/6期業績予想

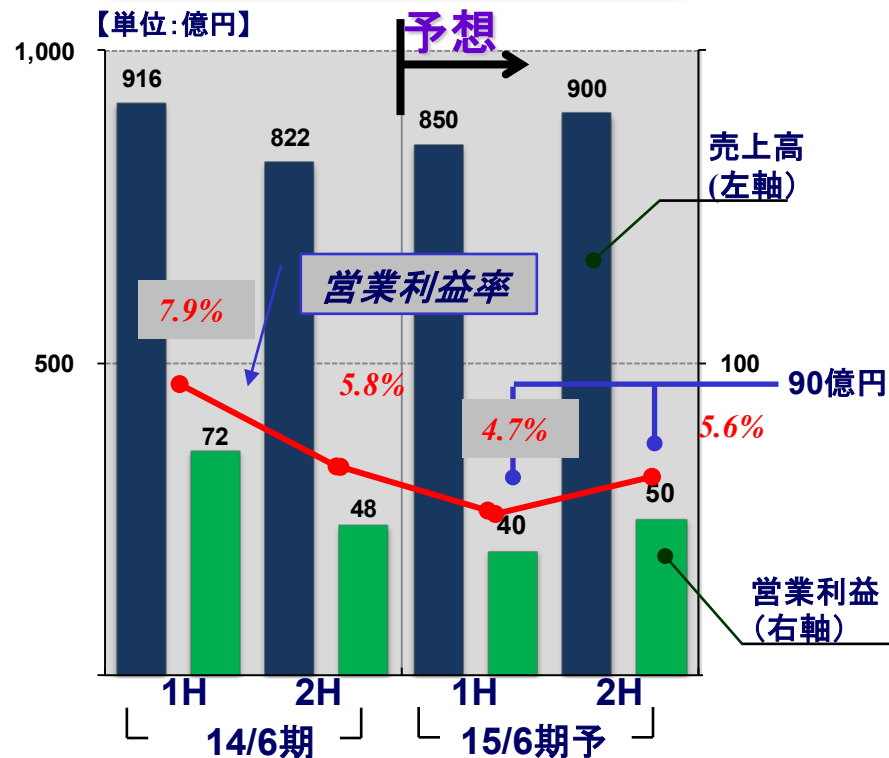
- ・受注高・売上高は、前年度比微増を予想。
- ・利益面については、①成長に向けた戦略的な研究開発投資を増加させること、②価格競争の更なる激化を見込んだこと、③特別利益の計上を見込んでいないこと、等から減益を予想。

【単位:億円】

	14/6期 実績	15/6期予想	
		2Q(累計)	通期
受注高	1,698	800	1,700
受注残高	672	622	622
売上高	1,739	850	1,750
営業利益	120	40	90
率	6.9%	4.7%	5.1%
経常利益	134	35	85
率	7.7%	4.1%	4.9%
当期純利益	115	25	65

【百万円単位で計算後、単位未満四捨五入】

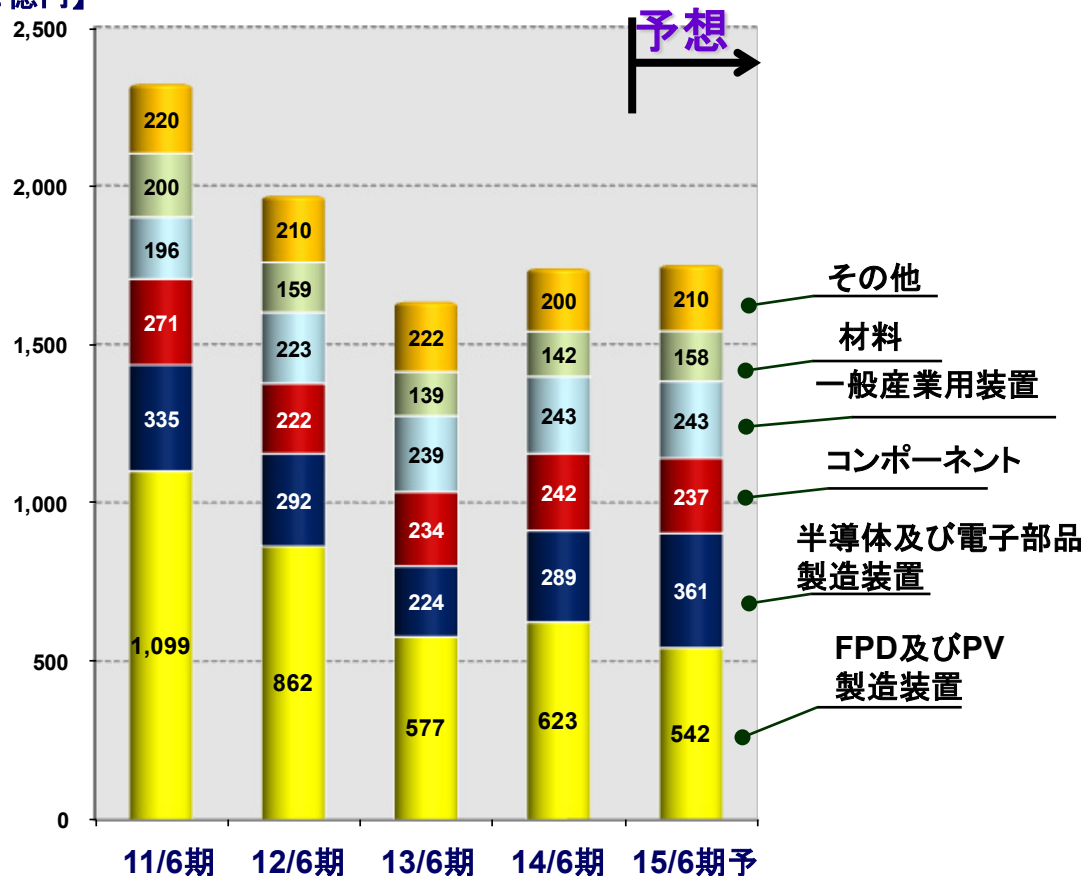
売上高と営業利益の推移(半期毎)



品目別売上高予想

- ・FPD及びPV製造装置は、前年度比減少する見込みであるが、半導体及び電子部品製造装置は増加が見込まれる。
- ・全体では前年度比微増を予想。

【単位：億円】

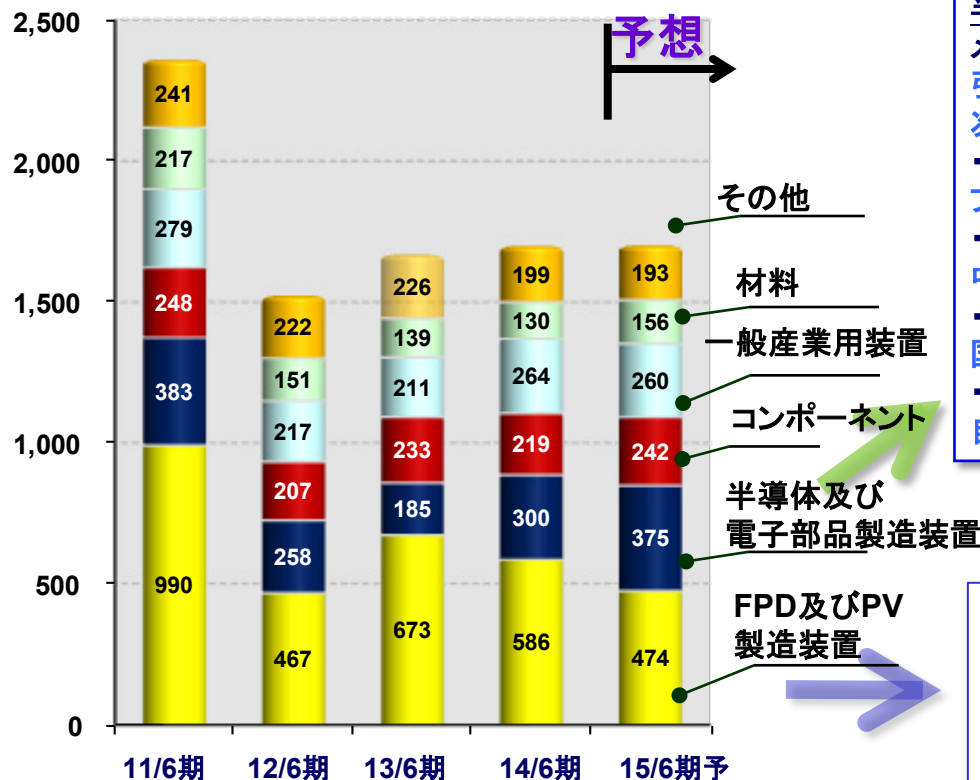


【記載された金額は四捨五入しておりますので各項目の合計値が一致しない場合があります。】

品目別受注高予想

- ・FPD及びPV製造装置は、前年度比減少する見込みであるが、半導体及び電子部品製造装置、コンポーネントの増加が見込まれる。
- ・全体では前年度比微増を予想。

【単位：億円】



半導体・電子部品

- メモリ：前年度比増加
引き続き中国、韓国でNANDフラッシュの投資が見込まれる。次世代不揮発メモリ向け投資も始まる。
- ・実装：前年度比増加
ファウンドリなど継続的な投資が見込まれる
- ・LED：前年度比増加
中国や国内の投資を想定する。
- ・パワー半導体：前年度比増加
国内、中国中心に引き続き堅調
- ・電子部品：前年度比増加
自動車関連やスマホ等高機能デバイスの向けが引き続き堅調。

FPD

- ・液晶ディスプレイ：前年度比減少
中小型パネル用の高精細化の投資が大半を占める。一部IGZO関連も期待。
- ・有機ELディスプレイ：前年度比減少
テレビ向けは延期・縮小。
スマホ、タブレット向け中小型パネルが中心。

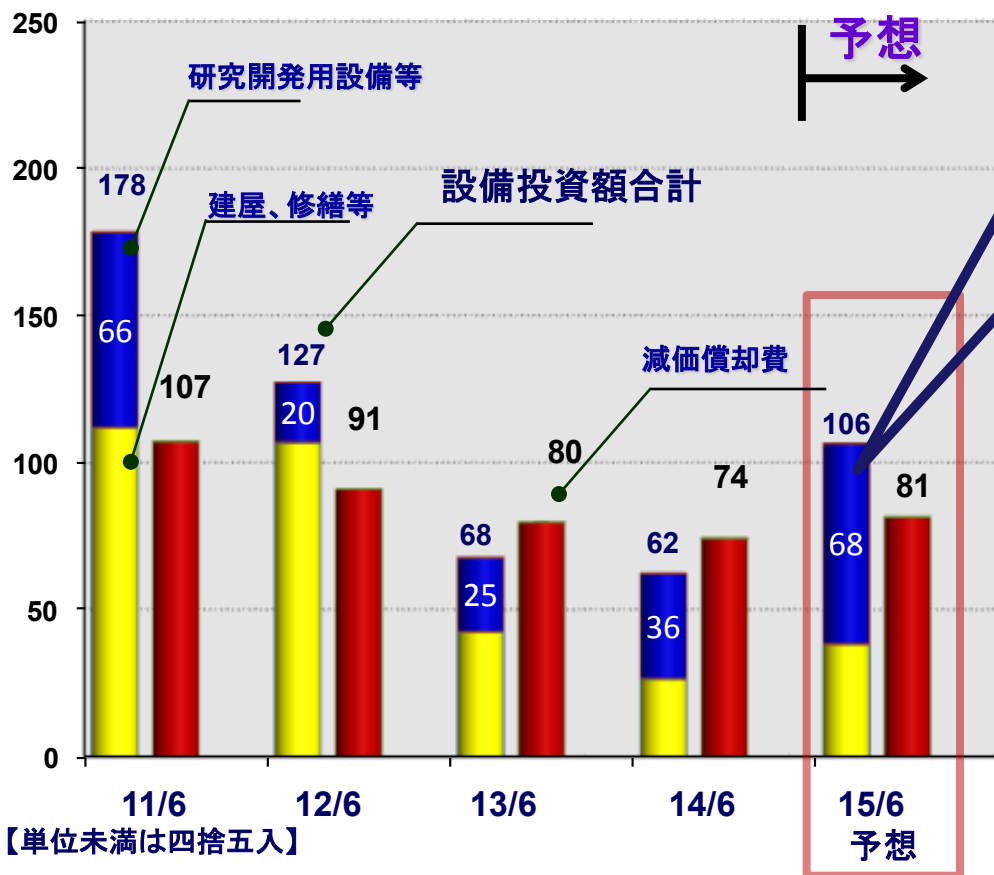
【記載された金額は四捨五入しておりますので各項目の合計値が一致しない場合があります。】

設備投資・減価償却費・研究開発費の推移・予想

13年6月期以降、設備投資全体を減価償却費の範囲内に抑制してきたが、競争力強化のため、重要領域を定め、成長に向けた戦略的な研究開発投資を増加させる(建屋・修繕等は継続抑制)。

設備投資及び減価償却費の推移・予想

【単位:億円】

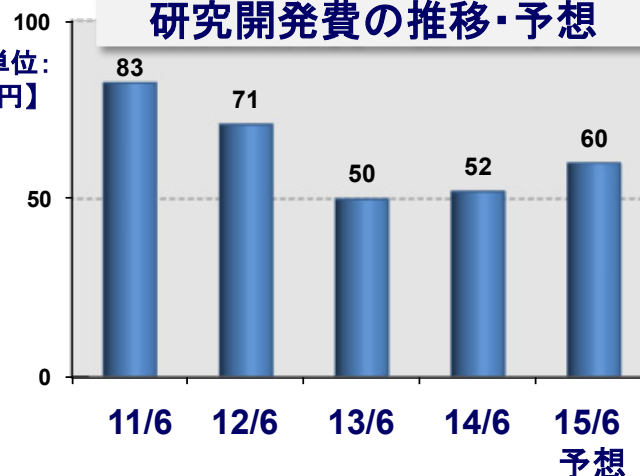


8つの重要領域

- ①次世代不揮発性メモリ
(MRAM、PCRAM、ReRAM、FeRAMなど)
- ②超微細配線
- ③LED
- ④パワーデバイス
- ⑤高密度実装
- ⑥自動車関連(PCHC、Li電池、燃料電池など)
- ⑦ディスプレイ(フレキシブルデバイス含む)
- ⑧太陽電池(CIGS, 結晶系太陽電池など)

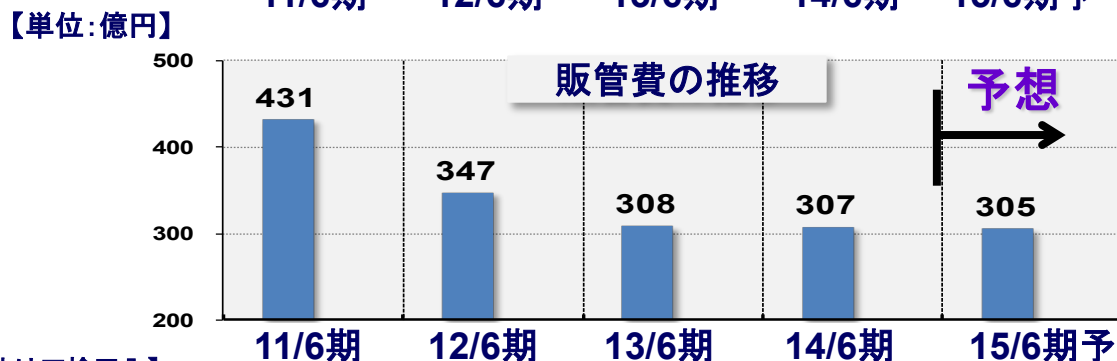
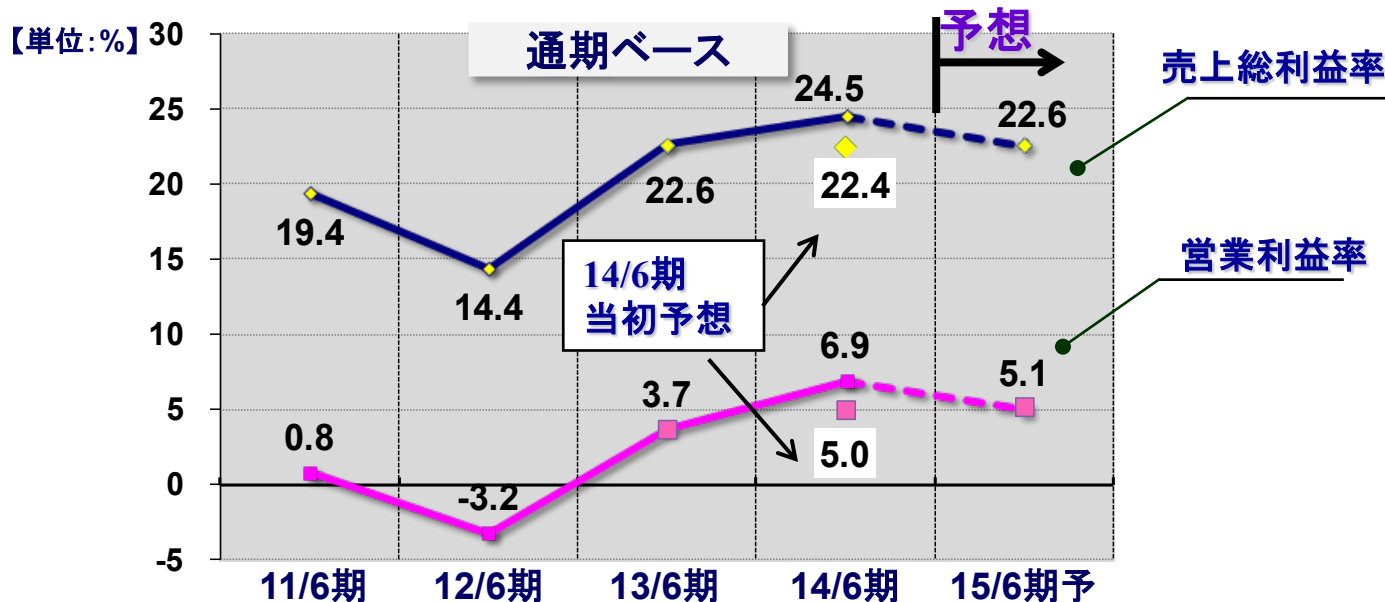
研究開発費の推移・予想

【単位:億円】



利益率の推移・予想

売上総利益率・営業利益率ともに、①成長に向けた戦略的な研究開発投資を増加させること、②価格競争の更なる激化を見込んだこと、等から前年度比低下を予想。販管費は継続抑制。



【小数点以下第2位は四捨五入】

アジェンダ

ごあいさつ

2014年6月期連結業績概要

2015年6月期連結業績予想

中期経営計画の見直し

質疑応答

中期経営計画の見直し（基本方針変更なし）

現中期経営計画

1.基本方針

確実・安定的に収益確保できる体制の確立を目指す

- ①価値創造型ビジネスモデルの再構築（真空技術を核とした付加価値を高める仕組みの再構築）
- ②不採算事業の見直し
- ③損益分岐点売上高の引下げ

2.事業領域についての基本シナリオ

- ①「FPD及びPV製造装置」「一般産業用装置」「コンポーネント」が継続的に下支え
- ②「半導体及び電子部品製造装置」が成長を牽引



上記1. 2. については、変更することなく事業を推進

計画初年度（14年6月期）

受注高・売上高は当初予想を下回ったが、営業利益・経常利益・当期純利益は当初予想を上回る結果

15年6月期以降

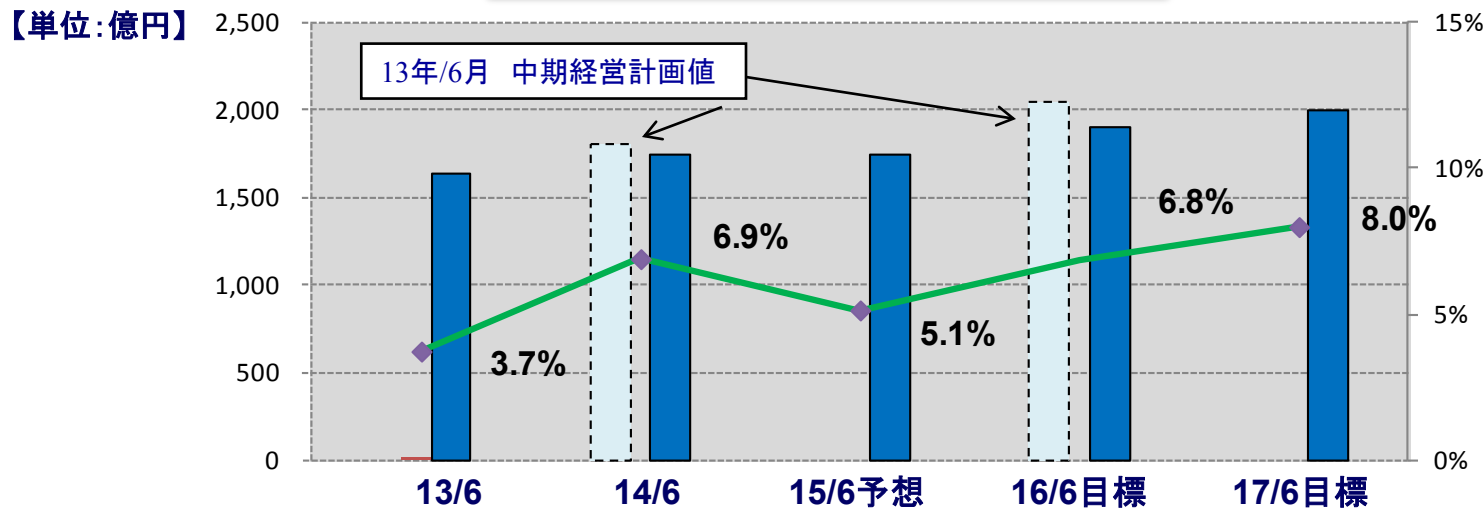
- ①戦略的な研究開発投資を当初想定より増加
- ②FPD及びPV製造装置の市場で、当初想定していた「テレビ用有機EL製造装置」への投資が延期・縮小傾向
- ③今後の価格競争環境についてより厳しめに見込む



数値目標見直し・最終年度1年延長

数値目標(連結)

15年6月期には、営業利益率が一時的に低下するが、16年6月期以降、半導体及び電子部品製造装置が引き続き成長の牽引役となり、売上高が増加する中で、営業利益(率)は徐々に改善(中期的には上昇トレンド)。



(ご参考)2013年6月策定の
中期経営計画(数値目標)

【単位:億円】

	13/6期	14/6期	15/6期 予想	16/6期 目標	17/6期 目標	14/6期 予想	16/6期 目標
受注高	1,668	1,698	1,700	1,900	2,000	1,800	2,050
売上高	1,634	1,739	1,750	1,900	2,000	1,800	2,050
営業利益	61	120	90	130	160	90	170
営業利益率	3.7%	6.9%	5.1%	6.8%	8.0%	5%	8%
経常利益	63	134	85	120	150	70	140
当期利益	-38	115	65	90	110	40	110

事業構造改革プロジェクトのこれまでの主な実績

開発戦略	PM中心の開発体制構築・進捗管理体制強化 戦略的開発推進のため8つの重要領域設定
営業戦略	営業本部強化・東南アジア等地域戦略明確化 ビジネスユニット毎のグローバル営業体制構築
コスト競争力強化	売上総利益率改善 11年度 14.4% ⇒ 12年度 22.6% ⇒ 13年度 24.5% フロントローディングの体制整備(追加原価はコントロールの範囲内となったが、フロントローディングの定着・徹底が今後の課題)
経費削減	固定費(経費)削減は計画上回る成果(利益確保に貢献) →今後は固定費増加抑制を通常の経営管理の中で実現
利益計画	事業部別予算・実績管理体制確立⇒今後は月次経営管理で対応
人事制度改革	人事制度改革・ポイント制退職金制度導入 ローテーション体制確立
スリム化	リードタイム短縮・棚卸資産削減等により運転資金回転月数短縮 [棚卸資産] 12年度 439億円 ⇒ 13年度 344億円 [売掛債権] 12年度 595億円 ⇒ 13年度 464億円 [固定資産] 12年度 897億円 ⇒ 13年度 851億円
業務改革	会議の削減、事務簡素化等で効率化実現
リスクマネジメント	与信管理強化・滞留債権管理強化実現 受注時のリスク管理体制強化
グループ経営管理	グローバル生産管理体制構築 子会社株式売却(日本リライアンス)

今後の事業構造改革プロジェクト

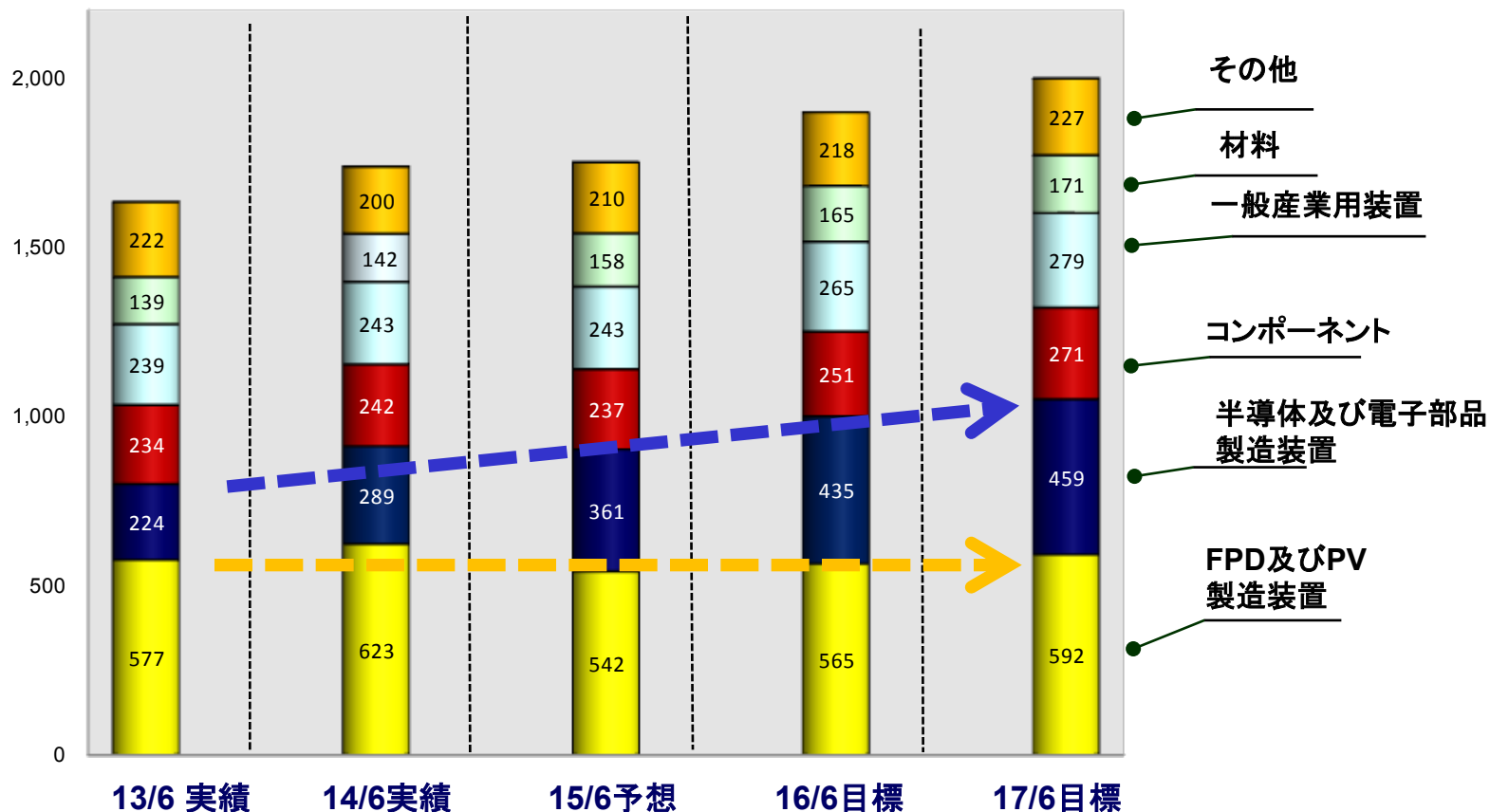
下記4プロジェクトを重点的に推進(これ以外は、通常の経営管理の中でモニタリングしていく体制が確立)。

<p>開発戦略プロジェクト</p>	<p>8つの重要領域を定め戦略的に開発推進 独創商品開発・新事業創出推進 グローバル開発体制構築</p>
<p>営業戦略プロジェクト</p>	<p>ビジネスユニット毎のグローバル営業戦略推進 グローバルマーケティング・広告・宣伝体制強化 新規ビジネス開拓体制強化</p>
<p>コスト管理強化 プロジェクト</p>	<p>コストダウン徹底による競争力強化 フロントローディング徹底</p>
<p>グループ連携強化 プロジェクト</p>	<p>グループ運営の強化・効率化</p>

品目別売上高の推移

半導体・電子部品製造装置が成長を牽引、FPD・PV製造装置は500億円台で推移、一般産業用装置、コンポーネント等は堅調に推移。半導体製造装置は不揮発メモリ市場の成長及びロジック市場への参入で、電子部品製造装置は実装、パワーデバイス、電池、LED市場の拡大により売上増加を見込む。

【単位：億円】



真空テクノロジーで
「つくる」をつくる、アルバック
ULVAC

本日は
ありがとうございました